

百人一首 (うたばんごう 歌番号: 1 ~ 5)

おくやま 奥山に もみじふ 紅葉踏みわけ なしか 鳴く鹿の こえき 声聞く時ぞ あきかな 秋は悲しき さるまるだゆう 猿丸大夫 	たごうら 田子の浦に うちいでて見れば しらたえ 白妙の ふじの 富士の高嶺に ゆき 雪は降りつつ やまべのあかひと 山部赤人 	あしびきの やまどり 山鳥の尾の しだり尾の ながながし夜を ひとりかも寝む かきのもとのひとよろ 柿本人麻呂 	はるす 春過ぎて なつき 夏来にけらし しらたえ 白妙の ころも 衣ほすてふ あま 天の香具山 じとうてんのう 持統天皇 	あき 秋の田の かりほの庵の とま 苦をあらみ ころも わが衣手は つゆ 露にぬれつつ てんちてんのう 天智天皇 
こえきくと きぞあきは かなしき	ふじのたか ねにゆきは ふりつつ	ながながし よをひとり かもねん	ころもほす ちようあま のかぐやま	わがころも ではつつゆに ぬれつつ